

## 視覚情報基礎研究会

The special interest group on Foundations of Visual Information(sig-FVI)  
<https://color-science.jp/vision/labnews/>

主査 眞鍋佳嗣 (千葉大学)

<e-mail> sig-fvi-staff@mc2.osakac.ac.jp

視覚情報に関する最先端の学問や技術の学びと、若手研究者の積極的な育成。

人間が外界から得る情報の約8割は視覚情報とされています。それらは、外界の光情報である物理面、視覚系と神経回路に関する生理面、大脳に投影されたイメージの知覚現象に関する心理面に代表され、相互に密接に関係し、視覚系全体から学際的な視点での研究と評価が必要です。

本研究会では、これらの研究対象に関して、著名な専門家から最先端の成果や技術を学び、一般講演を通じて議論を深めることができます。2009年に研究会が発足して以来、48回の研究発表会が実施され、85件の招待講演と320件以上の一般講演がありました。また、第12回研究発表会から企業展示コーナーを設け、製品の紹介をしてもらっています。さらに、日本色彩学会誌での特集論文や、国際会議等の開催に協力してきました。

この1年での研究発表会では、第47回において、白木厚司氏(千葉大学)による招待講演「任意の複数方向に映像表示可能な指向性ボリュームディスプレイの開発」と4件の一般講演が、また第48回において、茅暁陽氏(山梨大学)による招待講演「Computational Ophthalmology: 画像処理とARによる視覚障害支援」と3件の一般講演がありました。さらに、秋の研究會大会で合同研究発表会に参加し、他研究会の会員を交えた議論・交流を実施しました。

今年度も、3月に研究発表会の対面での開催を計画しています。若手研究者の発表の場として、また関連研究会の発表の聴講や議論の場として、積極にご参加ください。

## 色覚研究会

Special Interest Group on Color Vision

[https://color-science.jp/color\\_vision/labnews/](https://color-science.jp/color_vision/labnews/)

主査 溝上陽子 (千葉大学)

<e-mail> sig-color-vision@ml.chiba-u.jp

私たちが色をどのように知覚しているのか、一緒に探っていきませんか？

色覚研究会は、私たちが色をどのように知覚しているのか理解し、応用面を含めて広く深く研究することを目的としています。色覚メカニズム、色の見え、色覚の多様性、カラーユニバーサルデザイン、色覚特性の応用など、色覚に関するあらゆる話題を対象としています。研究会の発表や専門家との交流を通して、色覚に関する知識を深め、色覚に関する様々な意見交換や議論ができます。

昨年度は研究会を2回開催しました。令和6年度秋の研究會大会合同研究発表会(令和6年11月30-12月1日)では、11件の口頭発表がありました。また、美的感性研究会・色覚研究会共催講演会『顔を探索する：科学で解き明かす顔の知覚・認知・感性』で

は、4名の有望な若手研究者、何元元氏(宇都宮大学)、谷山祐真氏(産業技術総合研究所)、田和辻可昌氏(東京大学)、沓澤岳氏(産業技術総合研究所)による講演が行われました。令和6年度研究発表会(令和7年3月10日)では、一般講演6件と、こちらも新進気鋭の若手研究者である兼松圭氏(九州大学)による招待講演「色知覚と色収差」が、ハイブリッド形式で行われました。参加者は32名(現地8名、オンライン24名)でした。今年度も同様に研究会活動を継続していきますので、ご興味のある方はぜひご参加ください。3月の研究会は、小規模で議論や交流ができる良い機会ですので、ぜひお気軽にご発表、ご参加いただければ幸いです。